



学校だより 12月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和3年 11月 30日
横浜市立日限山小学校
〒233-0015

港南区日限山二丁目 16番1
TEL 045(841)6561

読書月間を振り返って

～本を読むきっかけ～

校長 岡崎 陽子

学校から見える富士山は、今、真っ白な雪を被り、凜とした姿を私たちに見せてくれています。本校には、その富士山の姿を見ることを楽しみにしながら登校してくる子どもたちが多くいます。

季節はめぐり、早いもので2021年も残りひと月となりました。今年も新型コロナウイルスの感染状況に大きく影響を受けた年でした。新しい年が穏やかな年になることを心から願っています。

11月は読書月間でした。本校では「読書の秋」に合わせて、様々な取組みをしました。図書委員会の子どもたちが学校全体で行う活動を企画し、読んだ本の冊数やページ数を記録する「読書マラソン」のカードを配付したり、読み聞かせ動画を作成して見せたりしました。また、担任以外の教員が各学級に行って読み書かせをする「ミステリーブックタイム」も実施しました。

更に、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言がようやく解除されたので、読み聞かせや図書のボランティアの活動も始まりました。読み聞かせボランティアの方々は、様々なジャンルの本を選んで、学年に応じた読み方をしてくださっています。図書ボランティアの方々は、図書室の壁面を季節に合わせて飾ったり、本の修理をしたりしてくださっています。引き続き保護者や地域の皆様のお力もお借りしながら、子どもたちが本や図書室に親しむ環境をつくっていきたいと考えています。

さて、私が子どもの頃は、今のように様々なメディアが発達していたわけではないので、家の中での過ごし方の一つに読書がありました。私事ですが、子どもの頃の読書の思い出を二つ紹介します。

一つは、小さい頃、寝る前に父が読み聞かせをしてくれたことです。毎晩ではありませんでしたが、仕事から早く帰って来たときに、白黒の影絵の挿絵が印象的な物語集を読んでもくれました。一つ一つの物語の内容は、もう覚えていませんが、読んでくれる父の声が一本調子で、だんだんと眠たそうな声に変っていくのがおもしろかったことだけは、よく覚えています。いつも最後までたどり着かず、続きはまた今度となるのが常でした。

二つは、学校の図書室から本を借りて読んだことです。「三銃士」や「フランダースの犬」等、世界名作物語シリーズの本を借りては読み、借りては読みしていました。物語の展開にドキドキ、ハラハラしたのはもちろんのこと、自分の貸出カードに本の書名がどんどん増えていくので、本を借りること自体も楽しかったのを覚えています。

本を読むきっかけは、人それぞれです。読みなさいと強制されるだけでは、なかなか読む気にはなれないものです。しかし、本に触れる機会がなければ、読書は始まりません。本校では、本に触れる機会を多くすることで、本に親しみ、本を読んで心が動かされる経験へとつなげたいと考えています。

今の私の読書タイムは、通勤電車の中とバスを待っているときです。スマートフォンを眺めていることも多いのですが、短い時間でも気軽に本を読むことができるように、文庫本を1冊、鞆に入れておくようにしています。